

公募研究 A02 (課題番号: 06208202)

欧米外交文書による対琉球条約の分析

研究代表者: 横山伊徳・東京大学史料編纂所・助教授

1. 研究項目: A02 環東シナ海地域間交流史

2. 研究課題名: 欧米外交文書による対琉球条約の分析 (課題番号: 06208202)

3. 研究期間: 平成6年度 (1994)

4. 交付研究費: 平成6年度 1,200 千円

5. 研究組織(氏名: 所属機関・部局・職)

(研究代表者) 横山 伊徳: 東京大学・史料編纂所・助教授(yokoyama@hi.u-tokyo.ac.jp)

(研究分担者) 杉本 史子: 東京大学・史料編纂所・助教授

(研究分担者) 保谷 徹: 東京大学・史料編纂所・助教授

(研究分担者) 松本 良太: 東京大学・史料編纂所・助手

6. 研究目的および研究計画の概要

東京大学史料編纂所が収集してきた欧米各国のマイクロフィルムから、幕末維新期の琉球関係史料を中心にその焼付けを作成し、その解読作業を通じてこれら史料を機械可読データとして蓄積して、同時期のこれら欧米諸国と琉球との外交交渉史の基礎的事実の確定作業を行なう。また、あわせて国内史料との照合を行なう。

7. 研究経過および研究成果

(1) オランダ関係史料について

商館日誌

琉球をはじめとして来航する異国船の情報が記載されている商館日誌の記事のプレーンテキスト化

(1840-1860)

受発信文書・秘密受発信文書

異国船の情報や条約締結交渉関係の史料の解読

外務省文書一般書翰簿抜粋

琉球来航船に対する幕府の対応とオランダの反応を世界各国にPRする政策の史料

対日政策ファイル

対琉球条約の存在を知ったオランダ外務省の狼狽を伝える史料の解読(1862年)

(2) フランス関係史料について

外務省文書覚書集

京大史料編纂所ではまだ入手していない覚書集に大量に存在する琉球条約関係史料を解読。

外務省文書政治局ファイル

生麦事件によるイギリスの対薩摩報復戦略上の琉球の位置を物語る史料を解読。

海軍省文書中国・日本海域駐留区史料

BB/4/788,838,852,637,706,754,763,768,769,770,777,779,780,787,793,794,817 を入手。一点目録を作成

以上の史料の分析から、アヘン戦争後の琉球を取り巻く国際情勢の変化と対日開国政策の関係を詳細に跡付けることができた。また、琉球条約の特殊性、特に1862年にフランス・オランダの対琉球条約の位置付けの変化の画期が存在することが判明した。

8. 情報化史料の概要

上記7.のうち、プレーンテキストファイル化されたものは、順次史料編纂所 FTP サーバ <ftp://shipsnw.hi.u-tokyo.ac.jp/ryukyu/> において公開(但し、所蔵者の了解の得られたデータのみ)。